

火ノ如シ、一種青黃色ニシテ腹紅ナリ、一種形魚狗ノ大サニ倍シテ、紫色腹紅ナルヲカラシヤ。ウビント云フ。

〔喚子鳥〕下せうびんこがひのゑがひ
大きさすゞめの大ぶり、かしらより尾までり色にひかり、はら赤くはしながく尾みじかし、子がひもすりゑに付がたし、あら鳥はどせうにてかふべし。

からせうびん原がひ右同断

大きさせうびんのばいに大きし、總身こいかき色にあかしはしながく尾みじかく、かたちはせうびんにて大きなり、河魚をくらふ。

山せうびん
山せみともいふ 烏ゑがひ 生ゑ壹 夭ゑ壹 外ゑ外 あをみ入

大きさせうびんとからせうびんのあいなり、總身きにあをく、はらくれなゐにて見事なる鳥なり、玄かしかひ鳥になりがたし。

〔食物和歌本草〕二魚狗魚狗

かはせみは魚の骨喉に立たるに煮て食たるも黒焼も吉、かはせみの寒の中なる鹽づけはあか腹とまりかぬるにぞよき。

〔食物和歌本草〕七翡翠翡翠

ひすいこそそのんどにほねの立たるにくろやきもよし煮て食も吉

〔古事記上〕○日子遲神八千矛、歌曰○中略、蘇邇杼理能阿遠岐美祁斯遠、麻都夫佐邇登理與曾比○下

〔古事記傳十二〕○蘇邇杼理能は鷦鷯鳥之にて青の枕言なり○中天若日子段に翠鳥とあるも、書紀には鷦とあれば此鳥なり、こは今世に川世美と云物にて、塙囊抄に少微と云り、曾比少微、世美などは、みな蘇爾の訛れるなり、綠色と云も、翠鳥色の曾を省るなるべし。